

本が生きる図書館づくり

蔵書は図書館のひとつひとつの細胞。
書架は蔵書を護り、活かす細胞壁。

太平中学校 司書教諭 谷口達夫



1

すべての本は利用されるべきもの



2

捨ててどうなった？



3

いずれの人にも
すべて、その人
の本を

- 展示方法の変化
面出しが可能になる

取り出しやすく
戻しやすい



4

いざれの人にもすべて、その人の本を

- 新旧に関わらず
分類内で展示を
工夫

5

読者の時間を節約せよ

他校から本棚をいただきました
事務職員さん・用務員さんの御協力！

- 配架内での改段 テーマごとのまとまりを作り、詰め込みすぎを防ぐ
- 別置コーナーを増やすと本棚内で検索ができるなくなる
- 蔵書の分類替え 細かい手間だが吟味すると蔵書が探しやすくなり分類内でのまとまりが良くなる。

6

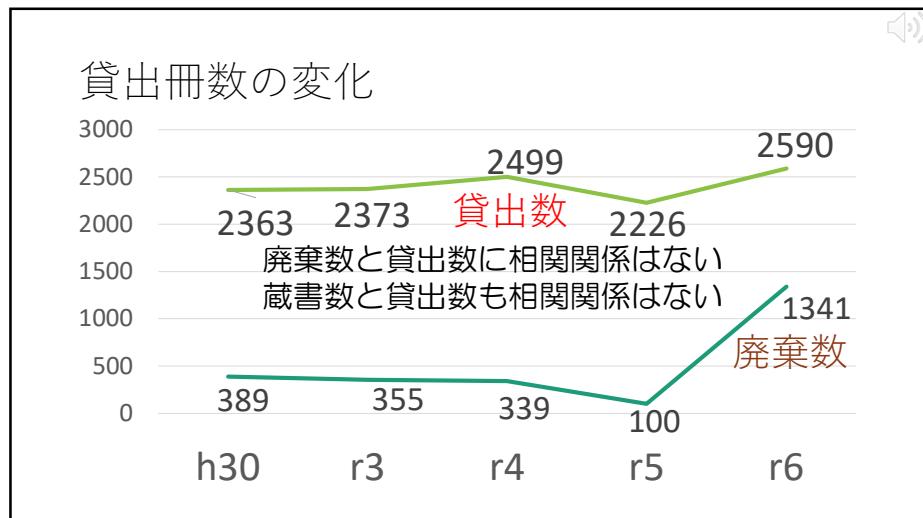
いざれの本にも、その読者を

新刊本の紹介は
新旧取り混ぜて
テーマ展示で

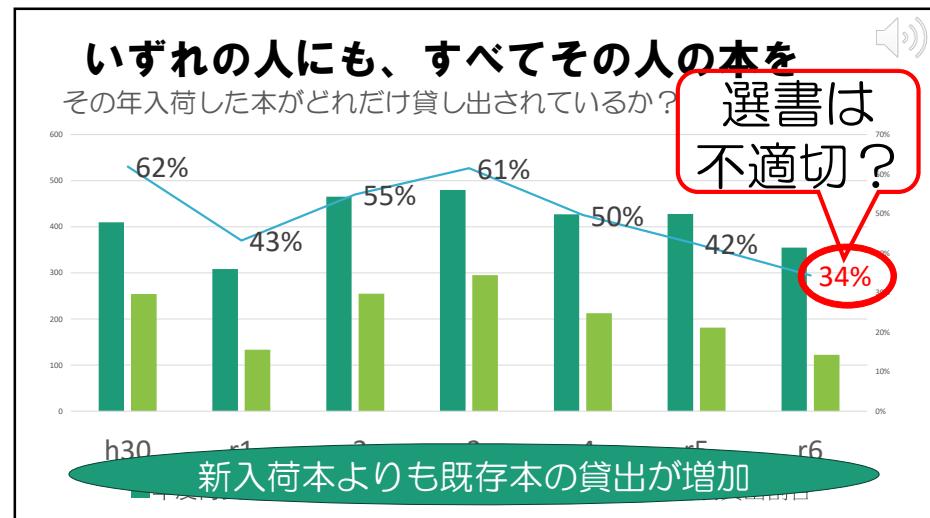
7



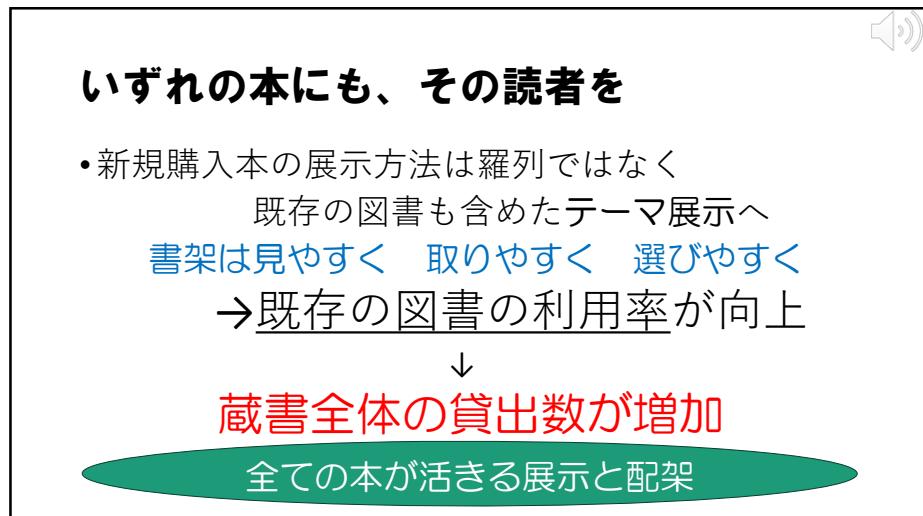
8



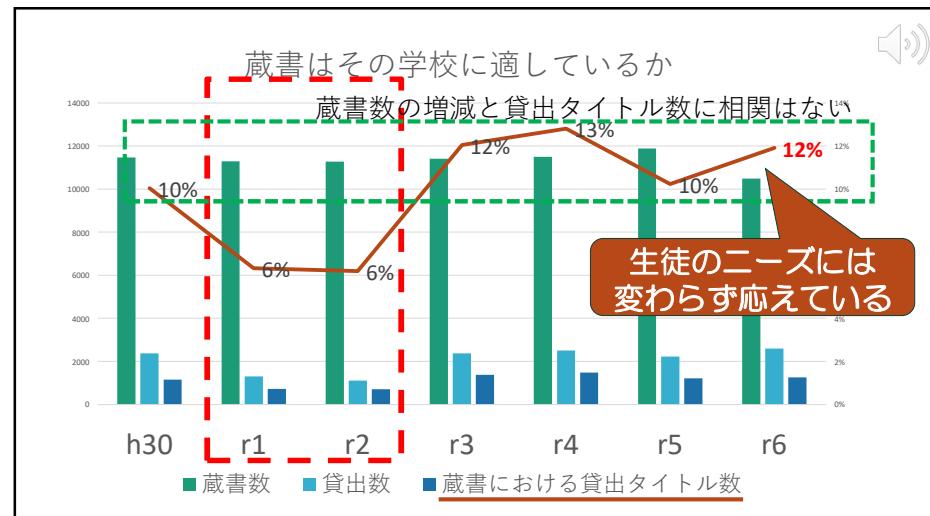
9



10



11



12

いざれの本にも、その読者を

- 利用されない本だから廃棄する…危険！

学校図書館として有るべき本はある
貸出されていない本=利用されない本 ではない

↓
どの本があるべき
残すべき
選書 捨てるべき

新刊本が既存本の利用を喚起する

• 教育課程
• 生徒の読書傾向

から考慮されねばならない

13

• 教育課程
• 生徒の読書傾向

から考慮されねばならない

司書教諭の仕事

司書教諭は、教諭として採用された者が学校内の役割としてその職務を担当し、学校図書館資料の選択・収集・提供や子どもの読書活動に対する指導、さらには、学校図書館の利用指導計画を立案し、実施の中心となるなど、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担います。(文部科学省HPより)

14

その学校で

授業をする人間じゃないとすぐにはわからないはず
と行事

選書は教師としての
責任を負うもの

司書教諭は、教諭として採用された者が学校内の役割としてその職務を担当し、学校図書館資料の選択・収集・提供や子どもの読書活動に対する指導、さらには、学校図書館の利用指導計画を立案し、実施の中心となるなど、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担います。(文部科学省HPより)

適切な選書が利用頻度を上げる

15

委員会活動の活性化

- 図書委員会 = いつも何か仕事がある委員会
- 日常活動が命… 「当番だから来て当然」か？

「お友達は体育館で遊んでるのに…」が本音
だったらどうしよう？

→ (自分の好きな) 図書館づくりに参加している
手ごたえを感じてもらうためには？

16

委員会活動の活性化

→ (自分の好きな)図書館づくりに参加している手ごたえを感じてもらうためには?

生徒の手で

毎日図書館が変化すればよい



変化が見える図書館にする

17

図書館は成長する有機体である

- ・日誌の記入・貸出業務で生徒が日々の貸出数を確認
教師が不定期に合計冊数を提示
→「もっと借りてもらうには」を委員が考え、実施する
POP書き 面陳列(面出し本)を選定
- ・カード抜き…当番以外の委員が自由に
不要になった貸出カードを本から抜くと本棚に隙間が生じる
- ・押印作業…廃棄本の消印 入荷本の蔵書印
新入荷本、寄贈本等への対応作業が早くなる
新入荷本を最初に
廃棄本を最後に手にするのは委員生徒という実感

18

ブックフェア (選書会)

6/1

受付は
委員の仕事



19

20

これは昼休みの様子です



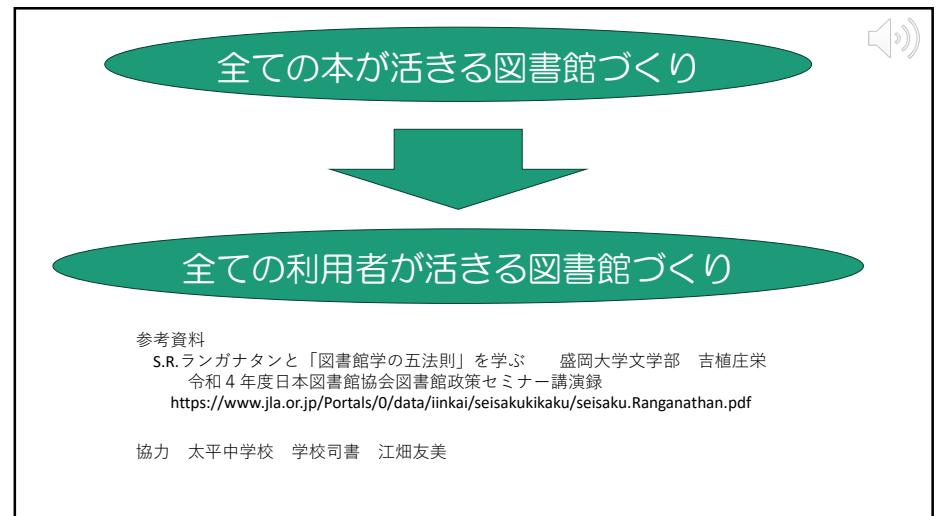


図書館は成長する有機体である

- ・適切な廃棄
→館内の環境づくり…自由に学ぶ場
- ・適切な選書
→生徒の外部記憶装置として…なんでも学べる場
- ・委員会活動の活性化
→何かに出会うことができる図書館づくり
…ワクワクがある場

全ての本が活きる図書館づくり

23



24